

## 第6編 教育委員会委員長あいさつ

よく食べ、よく遊び、よく眠れ



三次市教育委員会  
委員長  
沖田 稔

古い新聞切抜きの中の「全国学力学習状況調査（以下「学力調査」という）」と「全国体力・運動能力、運動習慣等調査（以下「体力調査」という）」（ともに平成22年度実施分）の公表結果都道府県一覧を示す記事が、ふと、目にとまった。その中からいくつかの県を取り出したのが下の表である。この表をもとに思いつくままを述べてみたい。

区分 県	学 力 調 査								体 力 調 査			
	小学6年生				中学3年生				小学5年生		中学2年生	
	国 語		算 数		国 語		数 学		男子	女子	男子	女子
	A	B	A	B	A	B	A	B				
W県	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	6
X県	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1
Y県	7	3	5	6	16	25	24	25	16	16	16	19
Z県	10	10	8	7	3	8	4	5	7	8	8	11
E県	4	4	6	8	8	11	16	16	10	9	14	9
F県	11	9	6	4	13	16	19	19	34	32	46	41
G県	15	24	32	30	18	18	36	35	3	4	4	8

※表中の数字は各都道府県の全国順位を表す

※学力調査のA・Bは、それぞれA問題・B問題をさす。体力調査は、握力、50m走、ソフトボール投げ（小5）・ハンドボール投げ（中2）など8種目の平均点の合計点（＝体力合計点）による順位

※例えばW県の場合、学力調査では小6国語、算数、中3国語がA及びB問題とも全国第1位、数学が2位、体力調査では小5男女、中2男子がそれぞれ2位、女子は6位である

- 1 先ず目をひくのは、W県、X県であろう。あたかも学力と体力とにかなり高い相関があるようにみえる。Z県、E県についても類似の状況がうかがえる。しかし、これまで学力と体力とのあいだに相関関係が成立するという説も裏づける資料もない。ただ、学力及び体力と生活習慣との関係、わけても朝食摂取や睡眠時間、TV視聴時間などと深い相関があることは多くの調査等で明らかになっている。すなわち生活習慣が確立した子どもたちは学力も体力も高い傾向にあるということは広く認知されている。
- 2 F県は学力に比べ体力面で課題があるということだろう。運動やスポーツの実施頻度が高いほど体力合計点が高くなるといわれており、新聞では、この県は大規模の都市部をかかえ、体力不振の理由として外遊びのできる空き地や公園が少ないことがあげられると分析している。これは体力と日々の運動量との相関が、生活習慣とのそれよりも大きいということか。
- 3 G県については学力と体力との順位に大きな差がみられる。こうした例は他にも数県で見受けられるが、そうした順位の差が生じるわけは定かでない。
- 4 年に1回の、しかも限られた教科等の調査結果をもとに表面的に学力、体力を云々するつもりはない。要はこうした実態を生む原因、背景についての分析と検討を十分に行い、効果的な対応策を講ずることこそ重要である。

「よく学び、よく遊べ」と古来いわれてきた。子どもの成長をめぐって実を的を得た明快な内容だ。ちなみに我が広島県は表中のY県である。「よく食べ（毎日の朝食）、よく遊び（運動・スポーツ）、よく眠れ（睡眠6～8時間）」で、体力、学力それぞれのさらなる向上を期待したい。